

学校関係者評価報告書(高等課程)

大阪YMCA国際専門学校
学校関係者評価委員会

2013年3月に文部科学省から「専修学校における学校評価ガイドライン」が発表されたことを機に、本校では、専門課程及び高等課程別に新しいガイドラインの評価項目に沿い、より教育内容と目標に合ったものに改めて、今秋再度自己点検・自己評価を実施いたしました。この2012年度自己点検・自己評価にもとづき、下記日時に開催した「学校関係者評価委員会」において、以下の評価と意見がありましたことを報告いたします。今後はこれらの意見、助言を踏まえ、よりよい学校運営と教育活動に努めてまいります。

開催日時 ①2013年12月16日(月) 10:00～11:00

②2014年1月27日(月) 10:00～11:00

開催場所 大阪YMCA国際専門学校 401教室

学校関係者評価委員

(敬称略)

評価委員	所属	役職
立野由美子	国際こども学フォーラム事務局	代表・国際モンテッソーリ治療教師
博野 英二	LLPチーム経営研究所	代表
桜井 和之	学校法人プール学院	総合教育研究所長
酒井 将	元大商学園高校	元校長
田中 真一	大阪YMCA学院	校長
佐藤 裕幸	大阪YMCA国際専門学校	校長
鍛冶田千文	大阪YMCA国際専門学校	高等課程副校長
小林 直樹	大阪YMCA国際専門学校	国際学科学科長
池田 聡美	大阪YMCA国際専門学校	表現・コミュニケーション学科

学校関係者 評価と意見

*4段階 4-適切 3-やや適切 2-やや不適切 1-不適切

評価項目	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
	平均	評価項目総括	平均	学校関係者評価委員からの意見
(1) 教育理念・目的・人物育成人材像	3.63	1-1 YMCAの「精神・知性・身体」の調和の取れた全人教育の理念を本校の教育理念としパンフレットやホームページに明記、生徒には学校説明会やオリエンテーション、日常の指導の中で伝えている。	3.6	1-1、1-4 入学礼拝や卒業礼拝、オリエンテーションの席上で「精神・知性・身体」の調和のとれた全人教育の理念を明言されている。3年間のカリキュラムの中には、理念、目的などが意図したものになっている。働いている一人ひとりもそのことを周知しており、進むべき方向が明確になっている。それは生徒の全人格的成長に高い効果をもたらしている。
1-1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	3.9			
1-2 学校におけるキャリア教育その他の教育指導等の特色は明確	3.4			
1-3 社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3.4	1-4 在校生・保護者にはよく周知されている。表現・コミュニケーション学科では、関係団体や学会でも概ね周知され、発表の場もある。国際学科では、関係業界では、帰国子女振興財団の事務局となっている。		1-2 表現・コミュニケーション学科では、入学時より生徒個別の能力・適性、志望などをふまえた進路指導がなされている。職業観を育てる「産業社会と人間」も一年次に必修となっていることもその根拠となっている。
1-4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒学生・関係業界・保護者等に周知がなされているか	3.8	※今後の改善方策 生徒の出身中学校や進学先などに、本校の特長とあわせて周知を行なう。		1-3 不登校、発達障がい、ボーダーの生徒、帰国子女、外国籍など、社会の弱者のニーズに対応している。国際学科においては、日本国においての英語の必要性に対応している。
				1-4 国際学科はYMCAならではの特徴があるが、周知されているとはいいいがたい。今後、周知する方法を考える

<p>(2) 学校運営</p> <p>2-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか</p> <p>2-2 運営方針にそった事業計画が策定されているか</p> <p>2-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか</p> <p>2-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか</p> <p>2-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか</p> <p>2-6 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	<p>3.24</p> <p>3.4</p> <p>3.2</p> <p>3.1</p> <p>2.9</p> <p>3.4</p> <p>3.8</p>	<p>2-1 法人全体で策定している10年単位のビジョンに基づき2〜3年単位の中期事業計画を立て、学校の年度単位の事業計画を策定し、学校運営を行っている。</p> <p>2-2,3 事業計画は、理事会・評議員会で意思決定され、学校事業責任者会議がそれを受けて具体的な運営を行う。各課程・学科の責任者が部門の目標、役割を明確にしつつ、部門同士の連携を図りながら運営し、部門の所属スタッフは、責任者より示された職務分掌に従い目標を理解し、役割と責任を果している。</p> <p>2-4,5 常勤者の採用・人事・研修(一部非常勤対象)等に関しては、大阪YMCA総体の本部事務局が、また非常勤者等の採用や人事に関しては各学校が管轄する。</p> <p>2-6 自己点検・自己評価、学校関係者評価および財務情報はホームページで公開。</p> <p>2-7 大阪YMCA本部のICT室で全事業所の業務管理と効率化を図るとともに、本校でIT専門の専任教職員を置き、部門の事情・特徴に応じ対応する。生徒管理システムにおいては、現在新システムを導入中である。</p> <p>※今後の改善方策 人事・給与に関する規定について、大阪YMCAの学校事業全体の整備に取り組んでいる最中である。</p>	<p>3.5</p> <p>2-1 利潤追求型の学校経営では決してなく、組織全体のビジョンに基づいた中期事業計画に則り全人格教育が展開されている。</p> <p>・学校にとって特に重要な人材を確保するには、人事・給与等の規定整備は重要であろう。現行の処遇は良くない訳ではないと思うが、透明性があればよい。</p> <p>・学校の運営方針は、明確になっており、教職員にも示されている。また、大阪YMCAのビジョンにおいて、2020年に向けての行動指針が明確にされており、常日頃より教職員の研修で利用されている点は評価できる。</p> <p>・人事給与に関する規定が非常勤には年度初めに簡単なものを渡しているだけであり、周知はできていない。高等課程には専門性をもつ非常勤講師が多く勤務しており、実学を学べるという点においては長所となっているが、講師たちがYMCAの教職員の一人として取り組むという姿勢も大切である。特に意思決定の過程においてどれだけ多くの非常勤の考えを受け止めるかを検討して欲しい。</p> <p>2-7 学校運営の情報システム化については他の項目から比べるとやや低いポイントになっている。表現・コミュニケーション学科の生徒管理システムの構築については、10年目に向けて計画的に進めなければならない。</p> <p>2013年度より大阪YMCA内の高校部門を1つにまとめ、情報共有できるシステム作りを実施している。今課題にすぎないが、改善していく見込みはありたい。</p>
<p>(3) 教育活動</p> <p>(目標の設定等)</p> <p>3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p> <p>3-2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか(教育方法・評価等)</p> <p>3-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか</p> <p>3-5 関連分野における実践的なキャリア教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか</p> <p>3-6 授業評価の実施・評価体制はあり、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか(資格試験)</p> <p>3-7 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか(教職員)</p> <p>3-8 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-9 職員の能力開発のための研修等が行われているか</p>	<p>3.28</p> <p>3.6</p> <p>3.5</p> <p>3.1</p> <p>3.1</p> <p>3</p> <p>2.4</p> <p>3.6</p> <p>3.7</p> <p>3.4</p> <p>3.4</p>	<p>3-1,2 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施等については、教育理念を具現化するための適切な教育過程を編成している。授業のみならず学校行事において毎年見直し、必要に応じて丁寧な見直しをしている。</p> <p>・各学科の特色にもとづき、毎年教育目標を見直し、目標達成に向けた年間計画を策定し実施している。</p> <p>3-3,4,5 ・時代のニーズと生徒たちの構成にあわせ、ゴールを明確にし、カリキュラムに反映させている。カリキュラムは毎年見直しを行い、時代のニーズに対応している。</p> <p>教科会議は学科毎に頻度が違い、頻度が低い学科は計画的に実施し、授業評価なども適切に実施することが改善として求められている。</p> <p>・成績評価・単位認定などは、2015年度の国際学科の学科改編に向けてシステムが変更することもあり、内外に明確にする必要がある。</p> <p>・表現・コミュニケーション学科の職場実習については、希望者のみならず必要とされる人に実施をし、実習前研修、ライフスキルの授業など体系的に行っている。幸いにも現在は受け入れ企業をなんとか確保できている状態である。</p> <p>3-9 教職員の研修は、職員と専任教員に対しては大阪YMCA全体で、安全研修と人権研修がそれぞれ年二回実施されている。また高等課程主催の一般教職員向きのセミナーや他団体が実施するカウンセリング研究会やモデル校見学、教員研修等には積極的に参加するよう案内をしている。業務遂行のための研修は、OJTの視点を重視して日常業務の中で指導している。</p> <p>・月に1度、アドバイザー会議を行い、学校運営の客観的な意見をいただいていることは、今後も継続的に実施する。</p> <p>3-11,12 教員の確保とスキルの向上について本校では、各課程・学科に必要な教員を定期的に求めるよう努めている。表現・コミュニケーション学科講師会等で取組などが発表されているが、両学科ともそのことができるように取り組んでいきたい。</p>	<p>3.2</p> <p>3-2 教育理念に沿った高等専修学校のフレキシブルさを生かした柔軟な教育課程の編成となっている。</p> <p>3-3 生徒のために毎週の教科会議を行っていることは評価できる。ただし生徒情報に終始しがちであるので、教科の課題、連携について協議することが求められる。</p> <p>3-4, 7 表現・コミュニケーション学科は中学時不登校だったことも加味した教育課程となっており、1年次から自己理解・「産業社会と人間」の導入、2年次の職業体験、特別講座、3年次のライフスキル、職業訓練校見学、各種検定の取組があり、工夫がなされている。国際学科はほぼ全員が進学ということではあるが、卒業生を招き、現在の職業の話を聴くなどしている。1年に一度だけであるので、キャリア教育という視点を加えたカリキュラムの工夫が必要である。</p> <p>3-5 教育活動の「授業評価の実施・評価体制はあるか」が低くなっている。今後、授業評価については導入する方法を検討しなければいけない。何をどこまで求めるか、どう評価するかがあった方が教員には分かりやすい。</p> <p>3-6 学校が定める成績評価基準は明確である。更に、YMCAでは出席率と受講態度も成績評価に反映されており、その比率も明確である。比率に関しては、講師会で協議し、非常勤の意見を反映できていることは評価できる。ただし、国際学科の進級基準は全日制の一条校と異なり長所ともいえるが、今一度見直す必要もあるのではないかと。</p> <p>3-7 就職をする生徒がほとんどいないため、自信をつけることや授業で学んだ成果を確認するための資格に終始している。(漢検、パソコン検定、英検)このことが理念に沿っているか再検討することがあるのではないかと。ただ、国際学科がTOEFLibtにおいて大阪府下第三位の実践的英語教育の推進校に選ばれていることは日々の成果であり、指導体制が充実しているといえるだろう。</p> <p>3-9 各現場において必要とされる知識や技能向上に向けた自主研修会が奨励されており、研修会内容が広義に亘り有効と判断される場合は合同で実施されるなどセクショナリズムが全くなく、有効に活用されている。</p>

(4) 生徒指導等	3.8	4-1-4 ・両学科とも週に1度生徒支援会議を実施している。また必要に応じて緊急会議や継続生徒支援会議を行い、一人ひとりの生徒を丁寧に支援している。	3.6	4 概ね高ポイントであることは、日々丁寧に生徒対応していることを評価する。ただし、今回、国際学科の生徒指導、生徒支援が高評価になっている。これは2011年度取り組んでいないことを2012年度取り組んだためだが、ずっと取り組んでいる表現・コミュニケーション学科が低いというのは客観性が低いと考えられる。評価基準を統一することが求められる。
4-1 基本的な生活習慣の確立のための取組が行われているか	3.6			
4-2 生徒の安全管理のための取組等(災害共済保険、スクールカウンセラー、発達障がいのある生徒等への支援などが行われているか)	3.9	4-2 保険に関しては学生生徒助成金制度・管理者賠償保険などがある。常駐のスクールカウンセラー、特別支援コーディネータの設置、発達障がいのある生徒への合理的配慮はなされている。		
4-3 生徒・保護者からの相談体制が整備されているか	3.9	※ 今後の課題 ・丁寧な生徒・保護者対応をするがゆえに、教職員はバーンアウトしやすい。それに対して、アドバイザーが生徒支援会議にはいっており、教職員の心のケアにも従事し、バーンアウトを未然に防ぐ。		4 生徒指導等の支援体制に対しての分野は毎年評価が高い。今年度はその数値がさらに上がっている。両学科とも生徒支援会議を最低週に1度行い、学科全体で生徒支援を行うという、大阪YMCAが重視する教育目標の中の人格形成に対する取り組みが、その評価に表れていると評価する。
4-4 進学・就職指導にかかる支援体制は整備されているか	3.8			4-2.3 高等専修学校に常駐のスクールカウンセラーがいることは評価できる。他校教員を指導できるような専門性の高い特別支援教育コーディネータをおき、丁寧に生徒支援を行っているところは、高校現場では進んでいるといえる。併設しているYMCA総合教育センターとの連携も、保護者、生徒自身、担当スタッフ・教員にとって大きな安心となっているだろう。
(5)特別活動等	3.45	5-1 クラブ活動や内外のボランティア活動は機会があるごとに薦めている。 ・クラブ活動は施設による制約(音・体育館の時間)はあるが、校内で工夫し、2012年度はフットサルクラブ、音遊びクラブが増設した。	3.2	5-1 物理的な制約がある中でクラブが毎年新たにできていく。スタッフの熱意を感じられるが、クラブ活動の位置づけも常に確認しておかなければいけない。
5-1 クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	3.3			
5-2 保護者会等と連携した活動を推進しているか	3.6	5-2 表現・コミュニケーション学科の保護者交流会、国際学科のPTAは、保護者にとっても安心して学校と繋がるものとなっている。		5-2 表現・コミュニケーション学科の保護者交流会は卒業生保護者も参加し、在籍生の保護者に安心を与えている。また、国際学科のPTAは学校と良好な関係であり、学校行事をはじめ、常に学校を支えてくれているのは大きな存在である。
(6)学修成果	3.38	6-1 進学率の向上について 本校では、課程の特色にもとづき、進学希望者には大学担当者(国内・海外)、専門学校担当者、職業訓練校担当者が、生徒一人ひとりの希望に応じて、計画的に進学指導を行っている。保護者にも1年次から適切な時期に進路ガイダンスを行い、学校と家族が協力して支援することを行っている。	3.2	6-1 設問に就職率の向上とあるが、学校説明時に就職希望の方は他を案内していると聞いていて実際両学科過去5年見ても就職者1人なので、設問が不適切であるのではないかと。進学率に関しては全員決定するか、1～2人浪人等で決まらない生徒がいるくらいなので、かなり良好だと見受けられる。
6-1 進学率や就職率の向上が図られているか	3.8			
6-2 資格取得率の向上が図られているか	3.4	6-2 資格取得率の向上について 学科別に目標資格を定め、入学から卒業までの間に取得できるように計画を立て、体系的な指導のもとに、生徒が効率的に資格取得できるように努めている。		6-3 表現・コミュニケーション学科は担任複数制をとるなど、退学率を抑える工夫は多く、例年退学者は2%ほどで大変低い。国際学科は2011年度まで10%ほどの退学率があったが、担任制、毎日のショートホームルーム導入等かなりの工夫がされ改善されつつあり、成果がみられる。
6-3 退学率の低減が図られているか	3.7			6-4 国際学科では社会的に活躍している卒業生の話を在校生が聞く機会を作っているが、個人的なつながりとして把握しているのみで、学校として把握するシステムができていない。海外にでて活躍している者も多く、なんらかの形で把握していくことが学校にとっても望ましい。
6-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.3			
6-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2.7	6-4 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか 在校生はもちろん、卒業生についても動向の把握に努めている。表現・コミュニケーション学科では2種類の卒業生プログラム、年に1度のアンケート実施、また同窓会やYMCAのボランティアとして活動する卒業生がいる。2014年度は設立10周年となり、学校主催の記念会を行うに当たり、同窓会と共に準備を行う予定。 ※今後の改善方策 表現・コミュニケーション学科だけでなく、国際学科、専門学校他学科卒業生が、YMCAのネットワークを活用し、ボランティア活動や社会の課題に取り組めるような仕組みを作っていく予定である。		6-5 学習成果の「卒業後のキャリア形成の効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか」についてはポイントが両学科とも3をきっている。卒業後のフォローアップが低い評価になっているように見受けられる。実際はある程度しているのに、評価者がそのことに気がついていないのではないかと。

<p>(7) 学生/生徒支援</p> <p>7-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p> <p>7-2 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>7-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p> <p>7-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>7-5 課外活動に対する支援体制はあるか</p> <p>7-6 学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>7-7 保護者と適切に連携しているか</p> <p>7-8 卒業生への支援体制はあるか</p> <p>7-9 関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか</p>	<p>3.46</p> <p>3.9</p> <p>3.9</p> <p>3.1</p> <p>3.7</p> <p>3.5</p> <p>3.2</p> <p>3.8</p> <p>3.3</p> <p>2.7</p>	<p>7-1,2,5,6 進路および学生相談に関する支援体制について</p> <p>本校では、国内外大学・専門学校への進学相談をする複数の進路指導担当者と、各クラス担任を配置して、一人ひとりの志望と能力資質に合せて進路指導と生徒相談への対応を行なっている。</p> <p>・担任だけが対応するのではなく、学校全体での支援を行っている。保護者・医療機関、場合によっては中学とも連携をとっている。</p> <p>・表現・コミュニケーション学科では大学生から年配の方まで多様なボランティアが授業や休み時間に入り、生徒のサポートをしています。生徒には多くの良質の出会いの場を提供している。</p> <p>7-4 保健室に常勤の養護教諭がいる。また毎年健康診断、レントゲンを行っている。</p> <p>7-7 定期的な保護者会がある。表現・コミュニケーション学科は2ヶ月に1度の保護者交流会、国際学科ではPTAが組織している。</p> <p>7-8 同窓会組織、卒業生と在籍生の山登りクラブ、ボランティア活動など多岐に渡って卒業生が活動できる場がある。</p> <p>7-9 YMCAサポートクラスと連携し、表現・コミュニケーション学科卒業生のフォローを行っている。</p>	<p>3.3</p> <p>7 項目について、4との重複項目がある。重複項目はまとめ、適切な追加項目をいれる。またコミュニケーションをとるためにも自己点検・自己評価の評価者にヒアリングをする必要がある。</p> <p>7-1 少人数制教育の下、1年次より進路指導を行っており、系統だてた進路ガイダンスを行っている。</p> <p>7-3 兄弟姉妹割引が適用されていることもあり、理念・方針に賛同し、兄弟姉妹での入学があることは望ましい。</p> <p>7-4 少人数の学校ながら、保健室・カウンセリングルーム・フリールームがあり、心・身体のとータルの管理を行っていることや、生徒の主治医とも常に連携をとろうとしていることは評価できる。</p> <p>7-8 卒業生に関する取組は、表現・コミュニケーション学科はかなりできているが、評価に結びついていなかった。毎年卒業生に現状を尋ねるアンケートを実施し、自立度を確認し、現行のカリキュラムの見直しをしていることは評価される。しかし、母数が少ないことやアンケートをかせせない層こそ、真実が見えてくるのではないか。国際学科も毎年卒業生に各種案内を送っているが、それを生かしていない。送りっぱなしになっている。どうそれを活用するか、検討する必要がある。</p> <p>7-9 「関連分野における業界」は高等課程にそぐわないので、「関連分野における教育団体」に変更した方がよい。</p>
<p>(8) 教育環境</p> <p>8-1 施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>8-2 学校内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>8-3 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3.33</p> <p>3</p> <p>3.4</p> <p>3.6</p>	<p>8-1 設置基準に基づき、快適に学習に専念できるスペースと施設・設備を確保、それらの整備状況を常に把握し、使用計画、使用案内を行っている。機器・備品については、現代社会に求められる最新の情報機器を備え、教育効果を上げている。課題は、教室以外の休憩スペースや食事場所等が手狭になってきていることである。</p> <p>8-2 学外実習やインターンシップに積極的に取り組んでおり、その内容は、外部関係機関との連携によりカリキュラムや実習およびインターンシップの受入に反映され、就職実績にも大きく繋がっている。</p> <p>8-3 大阪YMCA全体で作成の「安全管理ガイドライン」に基づいて作成した本校の防災マニュアルに従った要員配置と役割明確化により法令に基づいた防災訓練を行う。従来の火災対応に加え地震津波の想定にも対応した訓練を加えた。要員の異動による変更は毎年確認し、責任を明確にしている。</p> <p>※今後の改善方策 安全・防災には入念に対策を取っているが、学生のアメニティの視点で、老朽化した設備のメンテナンス</p>	<p>3.5</p> <p>8-1 施設・設備が整備されているか否かの評価は、具体的な内容が上げられれば評価しやすくなる。</p> <p>8-2 職場実習は制度として整備されており、実習中の学校担当者の生徒視察・実習内容・評価依頼は適切に行われている。</p> <p>・実習施設はYMCAの資源が多くあり、十分に活用している。ただし、学内では水場が足りないという現状がある。</p> <p>・海外研修は英語圏内・圏外と工夫されている。しかしながらYMCAのネットワークがうまく生かしているとはいえないので、そこを生かす可能性を考えてみてはどうだろうか。単なる語学学習以外のものが得られると思われる。</p> <p>8-3 防災訓練は定期的に行われており、教職員を対象として安全研究会を年2回開催しており、防災についても準備は十分出来ていると判断する。食料等の備蓄も開始され、充実してきている。</p>
<p>(9) 学生の受入れ募集</p> <p>9-1 高等学校/中学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みが行われているか</p> <p>9-2 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>9-3 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか</p> <p>9-4 学生納付金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3.65</p> <p>3.3</p> <p>3.8</p> <p>3.8</p> <p>3.7</p>	<p>9-1 生徒募集活動について</p> <p>本校では、生徒の募集活動について、その内容や手法においては教育機関としての節度を持ち、適正に行うよう努めている。広報に用いるパンフレットやWebサイトは、教育内容、進学状況等が、生徒や保護者の立場からわかりやすく理解できることを常に意識し、作成している。学内における説明会や個別相談に対して、適切な対応ができるための研修を行い、相談後も入学に至るまでのフォローアップも行っている。</p> <p>9-2 入学選考について</p> <p>入学選考を適正かつ公平に行うため、入学募集要項に入学選考方法の基準を記載している。</p> <p>9-4 学納金について</p> <p>理事会・評議員会において、各課程・学科における入学金、授業料、実習費等の学納金が、学生・生徒の人数、教育内容、教育環境に照らし妥当なものであるかどうかの検討を経て、決定している。</p>	<p>3.7</p> <p>9-1,2,3 生徒募集については、内容および手法において適切であると判断する。学校に関する情報についても全てWEB上に公開され、誇張な表現もなく、就職実績、資格取得実績等についても正確に記載されている。</p> <p>9-4 学生納付金についても、理事会・評議員会等で丁寧協議されている。少人数で授業を行うこと、常勤の外国人教員が複数いることから考えると良心的な設定となっている。</p>

(10) 財務		2.87		3.1	10 財務情報についても、WEBで公開している。専門学校だけでなく、学校法人全体として財務を管理している。学校事業全体として中期事業計画および中期財務計画を立案し、着実に成長してきている。
10-1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	2.6	10-1 大阪YMCA全体の本部事務局財務と学校事業本部が連携して、学校の財務基盤について中期計画を立て、執行状況に関しては毎年半期ごとの理事会・評議員会のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。 課題としては、国際関係や世界経済状況により、留学生の入学者数が大きく左右され、安定した収入基盤の確立が上げられる。		
10-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3			・時代のニーズに応じて、事業の選択と集中を行っており、効率的な学校運営を行っている点は評価できる。また、グループ法人として公益財団法人と社会福祉法人を有しており、有機的なつながりが事業面だけでなく財務面においても効果的に機能している。
10-3	財務情報公開の体制整備はできているか	3	10-2 予算収支は中期計画、年度計画に基づいて執行し、その妥当性は理事会・評議員会でチェック、予算の問題点や今後の動向について業務組織に対する指摘が行われる。 10-3 学校評価公開にあたり、財務情報の公開も行っている。ごとの理事会・評議員会のチェックを経て財務状況、資産内容や資金内容の管理を行っている。 ※今後の改善方策 安定した収入基盤確立に努める。		・安定した収入基盤の確立は、少子化社会においては学校の存続に係る課題である。この質問項目のポイントが低いが、重点項目として具体策を打つべきではないか。
(11) 法令等の遵守		3.78		3.7	・法人本部事務局にて、法務・会計・労務等の専門家を配置し、専門学校だけでなく、すべての事業の法令順守において管理をしている。個人情報管理などについても、公益財団法人・社会福祉法人と協働で研修を実施している。安全研究会・人権研究会を全職員対象に年2回実施している。その都度、法律等の専門家より研修を受けている。 この点は、YMCAの団体の持つ特性から極めて丁寧に実施していると評価する。
11-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.7	11-1 本校では、学校法人の学校事業本部、大阪YMCAの複数法人を取り纏める本部事務局のそれぞれが法律の専門家を顧問として配置し、新制度や規則の制定、各種届出などの際に多角的なチェックを行うなど、法令等を遵守する体制を構築するとともに、学校事業本部、本部事務局への報告を通して運用が適切であるかどうかを検証している。		
11-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.7			
11-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3.9			
11-4	自己評価結果を公開しているか	3.8	11-2 2005年以来、大阪YMCAが組織全体で定めた個人情報保護ガイドラインにもとづき、学校に必要な個人情報の保護を、学校事業本部主導のもとに運用し、毎年の講師会において常勤者・非常勤者ともにそのルールについて注意喚起を行い、個人情報の保護に努めている。 11-3 全国のYMCA専門学校グループとして2005年から独自の自己点検・自己評価を行ってきた。2008年度から実施と公表の義務化あわせ、積極的に公開している。また、今後第三者機関の意見を取り入れることが課題である。 ※今後の改善方策 今年度課程毎に発足した学校関係者評価委員会によって評価・改善を進める。		
(12) 社会貢献・地域貢献		3.67		3.6	12-1,2 地域の西船場納涼祭での屋台を生徒たちが担ったり、震災などの街頭募金を行ったりしている。また大阪YMCAの機関紙の発送作業を大人のボランティアと行うなど、若者がボランティアを通して人材養成を行っているYMCAだけあって、この領域のポイントは高く、YMCA内外のボランティア団体との連携・協働も活発である。 12-3 定期的に公開講座・ボランティア養成講座を行っている表現・コミュニケーション学科と年に1回の講座を行っている国際学科との学内差がでた。今後それぞれの専門性を生かしたものを協働もしくは分化しながら活動してほしい。
12-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3	12-1,2 本校では、YMCAの特色を活かし、多くの社会活動に取り組んでいる。学校行事としてのボランティア活動はもとより、YMCA全体行事として、また土佐堀YMCA運営委員会との連携、YMCAのサポートクラブであるワイズメンズクラブとの連携、大阪市や西区役所との連携により数々の社会活動を生徒とともにやっている。		
12-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.8			
12-3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2.6	12-3 本校別科にて一般を対象として実施している。		
全体平均		3.16		3.43	